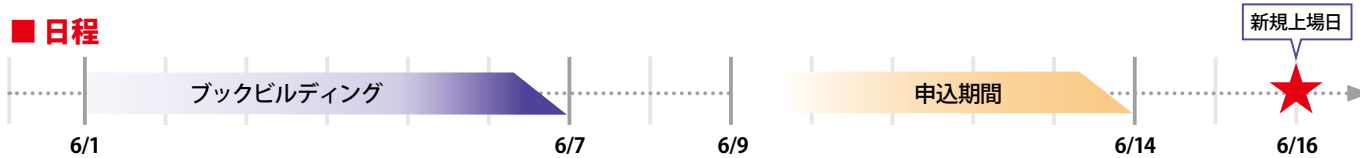


IPO銘柄 農業総合研究所 (3541・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3541	100株	公募: 27.00万株 売出: 10.00万株 (OA5.55万株)	1,010円~1,050円 (19.1倍)	大和証券



農家と小売店との直接流通を支える

■ 事業内容

登録生産者とスーパーなど小売店との直接流通を構築する「農家の直売所事業」を手掛ける。16年2月末時点の集荷場は全国53カ所（業務委託先36カ所含む）で、販売先は570店舗、登録生産者は5,231名。このほか、買取委託販売は、天候不順などで農産物の供給量が安定しない場合やスーパーからフェア実施などで一定の供給量の要望があった場合に、自社で買い取って供給量を確保し、委託販売を行う。卸販売は、農作物を生産者から買い取ってスーパーに販売する通常の仕入れ販売で、他の事業と比べると利益率は低めになる。農家の直売所事業の単業態。

■ 特徴

登録生産者から農作物を集荷し、スーパーなどの直売所コーナーで委託販売を行う流通経路を提供。集荷場では販売先のバーコードを発券するシステムを同社が構築しており、生産者は自分専用のバーコードを発券して袋詰めした農産物に貼り付けて出荷。生産者は販売する農産物、販売先、販売価格を自分で決定することができる。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年8月期の非連結経常利益は、前期比3.5倍の1億5,500万円を計画する。消費者の食の安全への意識は高く、直売所における野菜販売の需要は堅調に推移。集荷場の拡充とともに販売先と生産者の開拓にも力を入れており、着実に規模を拡大させてきている。

■ 定性分析

JAを経由しない野菜販売による農家の収益拡大、農業IT化の手助けに寄与するビジネスを展開。食の安全という大きなテーマにも乗る。ネット関連などに比べると高成長イメージは乏しいが、潜在的な需要は大きく、中長期的な成長が期待できそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約4.5億円と軽量。ベンチャーキャピタル保有株もほとんどなく、公開株式以外の株券が需給状況を狂わすようなシナリオは描きづらい。6月後半はIPOが密集しているが、16日は同社1案件の上場で資金分散の懸念はない。

(小泉健太)

■ 類似企業

農業総合研究所(3541・マザーズ)	予想PER19.1倍 (仮条件上限)
インフォマート (2492・東証1部)	予想PER43.4倍
アルファクス・フード・システム (3814・JASDAQ)	予想PER19.6倍

■ 引受証券

大和証券、野村証券、みずほ証券、SMBC日興証券、SBI証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年8月期(実績)	858	63.7	-23	赤縮	-26	赤縮	-15.0	—
15年8月期(実績)	884	2.9	44	黒転	52	黒転	29.4	—
16年8月期(会社予想)	1,051	18.9	155	3.5倍	100	93.4	55.1	—

※ 15年8月に1株→100株の、16年2月にも1株→100株の株式分割を実施。
14年8月期、15年8月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年8月期	177	575	1	42	1.0	0.3	—
15年8月期	17,700	549	53	42	30.4	9.8	187.1

※ 14年8月期および15年8月期のBPSは遡及修正

大株主上位 (上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 プレンティアー	820,000	46.33
2 及川 智正	370,000	20.90
3 堀内 寛	330,000	18.64
4 澁谷 剛	100,000	5.65
5 東果大阪	60,000	3.39
6 農業総合研究所従業員持株会	30,000	1.69
7 松尾 義清	13,000	0.73
7 坂本 大輔	13,000	0.73
9 プラス	10,000	0.56
9 三菱UFJキャピタル4号投資事業有限責任組合	10,000	0.56
9 紀陽リース・キャピタル	10,000	0.56

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	及川 智正
取締役副社長	堀内 寛
取締役 管理部長	松尾 義清
取締役 経営企画室長	坂本 大輔
常勤監査役	清野 芳昭
監査役	後藤 弘之
監査役	藤本 幸弘

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。